



第80回 九州・沖縄生殖医学会

学術集会長

桂木 真司

宮崎大学医学部 産婦人科 教授

● 第80回 九州・沖縄生殖医学会 ●

日 時：2024年4月7日(日) 8:45～16:30

会 場：**TKP エルガーラホール**
福岡市中央区天神1-4-2

学術集会長 桂木 真司
宮崎大学医学部 産婦人科 教授

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200
TEL：0985-85-1510
FAX：0985-85-6149

学術集会長挨拶

第80回九州・沖縄生殖医学会の開催にあたって

宮崎大学医学部 産婦人科 教授

桂木 真司



このたび、第80回九州・沖縄生殖医学会を令和6年4月7日(日)に、福岡市のTKPエルガーホールで開催させていただくことになりました。宮崎大学医学部附属病院にとって大変光栄なことであり、九州・沖縄生殖医学会の皆様には深甚なる謝意を表します。

以前より国内では少子化が叫ばれており、2023年の国内の出生数は速報値で69万6,886人と、減少の一途となっています。また、不妊治療を巡る情勢に関しても、ここ数年で目まぐるしく動きがあり、特に不妊治療への保険診療の導入に伴い、2022年度に保険適応された医療費は約895億円にのぼり、2022年度の不妊治療の患者数は約37万人に至りました。望んでいても授かることのできない患者に対して、より手を差しのべられる存在として私たち生殖医療の専門家は知識を深めていく必要があると感じております。

今回の学術講演会では、ランチョンセミナーの講師として聖マリアンナ医科大学副院長の鈴木直先生を、モーニングセミナーの講師には英ウィメンズクリニックさんのみやクリニック副院長の岡本恵理先生をお迎えしております。両先生には、本学術講演会では生殖医療における最近の話題について紹介していただく予定です。

新型コロナウイルスは未だ続いておりますが、感染対策を万全に行い、開催形式は現地開催で準備しております。できる限り顔を合わせて、活発な議論の場となれば幸いです。

末尾になりますが、本会の開催にあたり日本生殖医学会九州ブロック会長の河野康志先生、あすか製薬株式会社ならびにフェリング・ファーマ株式会社の皆様にご多大なるご協力とご尽力を賜りましたこと、この場にて厚く御礼申し上げます。今回も多くの会員から演題が集まり、複数演題の発表が予定されております。春の福岡で、学問はもちろん観光なども楽しんでいただけると幸甚です。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

交通案内

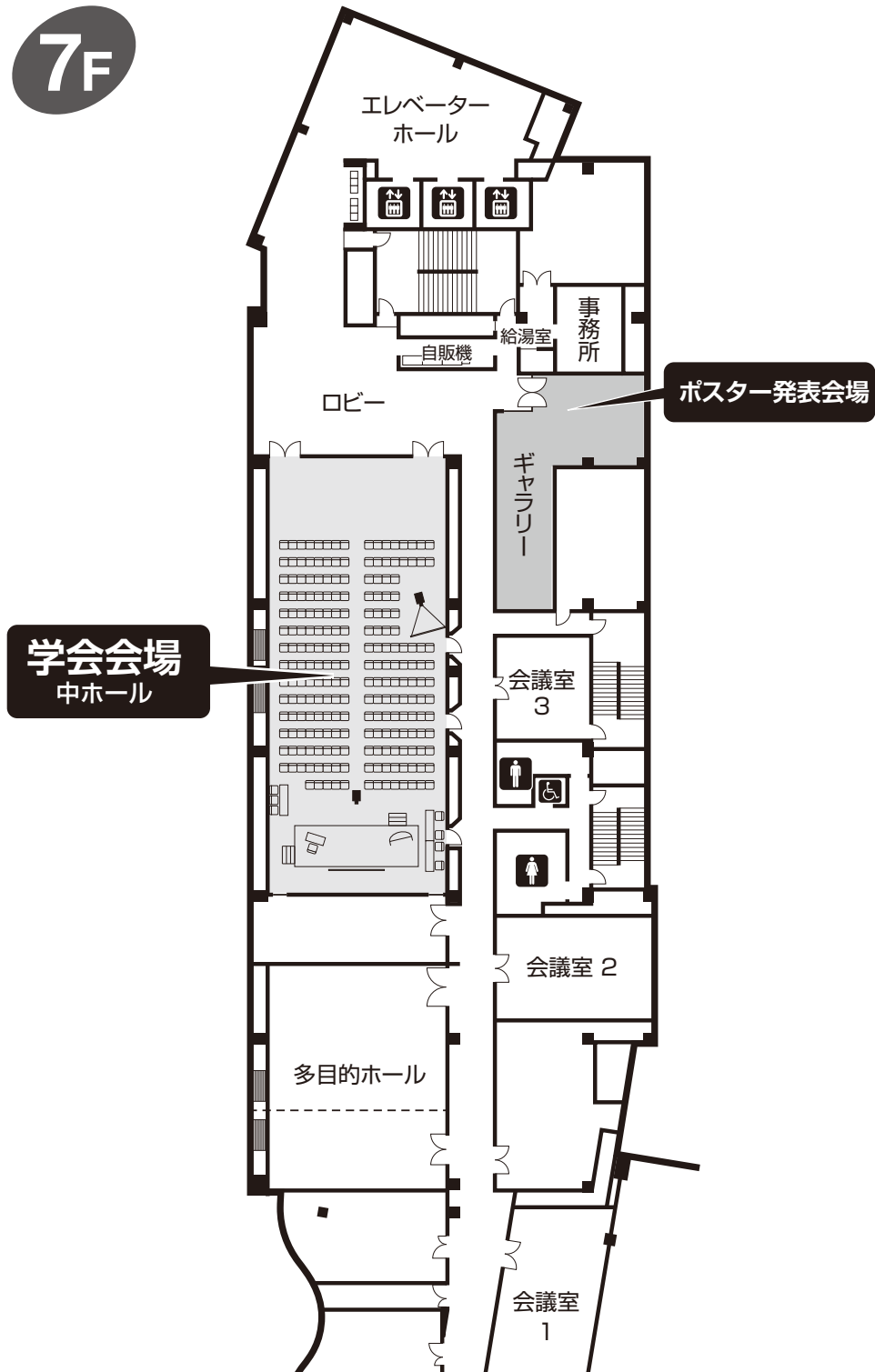


- 地下鉄空港線「天神駅」より …… 徒歩5分
- 地下鉄七隈線「天神南駅」より …… 徒歩1分
- 西鉄福岡(天神)駅より …… 徒歩2分
- 天神バスセンターより …… 徒歩3分
- JR博多駅より …… タクシー約10分
- 福岡空港より …… タクシー約20分

会場案内

エルガーラホール

7F



参加される方へ

本会は、現地開催となります(ライブ配信、オンデマンド配信はございません)。
参加される方は当日、現地のみ受付となります。

■参加費

参加区分	参加登録費
会 員	5,000円
非 会 員	5,000円
初期研修医、院生、学生	無料(当日現地のみ受付)

※初期研修医、院生、学生の方は無料です。在籍証明書を受付にてご提示ください。

■抄録誌の販売について

本会のプログラム抄録誌は九州・沖縄生殖医学会会員の方には事前に郵送いたします。
購入を希望される方には、当日現地にて販売いたします。

抄録誌 現地販売 1冊500円

参加される方への単位取得について

日本産科婦人科学会会員の方は会場の単位登録受付にて「JSOG カード」または「JSOG アプリ」を提示のうえ、単位登録を済ませてください。

日本産科婦人科学会会員の方は以下の単位が取得できます。

- ① 学術集会出席：日本専門医機構学術集会参加単位 2単位
- ② [産婦人科領域講習] 受講：日本専門医機構 [産婦人科領域講習] 1単位

日本専門医機構単位付与講習 [産婦人科領域講習] について

日本専門医機構産婦人科領域講習単位(1単位)は、セッション開始の10分前から講習参加受付を開始します。講演開始時間から10分以上過ぎた場合、聴講は可能ですが、原則として専門医機構単位付与はされませんのでご注意ください。

モーニングセミナー

「生殖補助医療—当院の取り組み」

岡本 恵理 先生(英ウィメンズクリニック さんのみやクリニック 副院長)

ランチョンセミナー

「本邦におけるがん・生殖医療の現状と課題—がんとの共生を目指して」

鈴木 直 先生(聖マリアンナ医科大学 副病院長)

日本産婦人科医会の単位

日本産婦人科医会の研修参加証につきましては、従来通りシールでの発行となります。

日本生殖医学会生殖医療専門医の方々へ

九州・沖縄生殖医学会については、日本生殖医学会生殖医療専門医更新ポイントが10点加算されます。当日受付にて芳名帳にご記名をお願いいたします。

日本泌尿器科学会会員の方々へ

- ① ご参加が確認できた方には参加単位(1単位)が付与できます。

※参加証を日本泌尿器科学会専門医認定更新申請時に添付してご提出ください。

- ② 【学術発表】泌尿器科に関する発表筆頭のみ(1単位)。
- ③ 【司会・座長】泌尿器科に関する発表の司会・座長(1単位)。

座長の先生方へ

座長の先生方は当日現地会場にご来場いただき、担当セッションの進行をお願いいたします。

セッション進行につきましては、座長に一任いたします。時間厳守で、円滑な運営にご協力をお願いいたします。

演者の皆様へ

- 口演時間はプログラムページでご確認ください。
- 発表時間は7分(発表5分・質疑2分)です。時間厳守でお願いします。
- ポスター発表は掲示のみです(口演はございません)。

【連絡先】宮崎大学医学部 産婦人科

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200

TEL : 0985-85-1510 FAX : 0985-85-6149

■口演発表

- 受付へデータ(USB)をお持ち下さい。動画再生がある方、Mac PCをご利用の方はご自身のPCをお持ち下さい。
- PCによってはプロジェクター出力に専用のコネクターが必要になりますので、必ずお持ちください。事務局で用意するのはHDMIに対応する端子のみとなります。
- 会場スピーカーに音声は流せません。
- PC 受付の液晶モニターに接続し、映像の出力チェックを行ってください。
- スクリーンセーバー、省電力設定は事前に解除をお願いします。電源アダプタは必ずご持参ください。
- Power Point は2020年バージョンを用意しております。これ以前のPower Point をご利用の方はご自身のPCをお持ち下さい。尚、発表者ツールはご利用いただけません。

■ポスター発表

- ポスターはプログラムに掲載されている演題番号と同じ番号のパネルにご自身で掲示をお願いいたします。

掲示時間：8時45分～9時30分の間をお願いします。

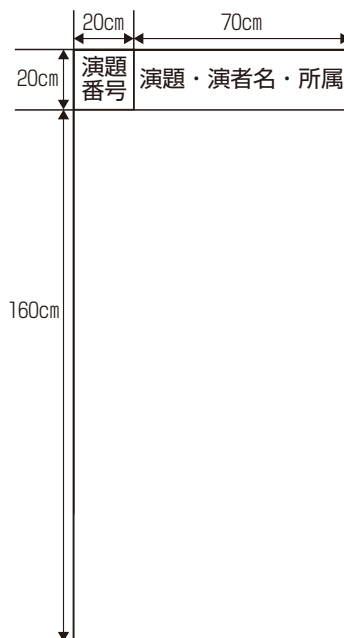
撤去時間：15時00分～16時00分の間撤去してください。

時間内に取り外されないものは処分します。

• 注意事項

最上部の演題番号は運営事務局で用意します。

演題名、演者名、所属については横70cm×縦160cmです。内容の配置は自由ですが、末尾には必ず結論を記載してください。



利益相反開示について

臨床研究に関するすべての発表において利益相反状態の有無にかかわらず、開示する必要があります。発表時にはひな形(ppt)に準じたスライドを呈した上で、利益相反状態の有無を述べてください。開示する利益相反状態は抄録提出の1年前から発表時までのものとします。

また、利益相反状態の開示に関しては、すべて日本生殖医学会の「利益相反に関する指針(2011年9月2日施行)」に拠るものとします。

スライドのひな形は本会ホームページの演題募集ページからダウンロードできます。

第80回九州・沖縄生殖医学会 プログラム

日 時：2024年4月7日(日)

場 所：TKP エルガーラホール

評議員会 8:45～9:15

総 会 9:15～9:25

開 会 9:25～

学術集会長 桂木 真司(宮崎大学医学部 産婦人科 教授)

モーニングセミナー 9:30～10:30

座長：田中 温(セントマザー産婦人科医院 院長)

生殖補助医療－当院の取り組み

岡村 恵理 英ウィメンズクリニック さんのみやクリニック 副院長

共催：フェリング・ファーマ株式会社

第1群 [卵巣刺激・採卵] 10:30～10:51

座長：銘苺 桂子(琉球大学病院 周産母子センター)

O-01 当院における採卵術時のデクスメドミジンによる麻酔管理の導入

○梶村 慈、江石 千明、松本 加奈子、北島 百合子、三浦 清徳

長崎大学 産婦人科

O-02 アンタゴニスト flexible protocol を用い 18mmから投与開始した場合の臨床成績の検討

○中島 大輔¹⁾²⁾、永吉 基¹⁾、牧野 祐也¹⁾³⁾、田中 威づみ¹⁾、田中 温¹⁾

1)セントマザー産婦人科医院、2)産業医科大学 産婦人科、

3)順天堂大学 医学部 産婦人科学講座

O-03 卵巣予備能低下症例に対する Platelet-Derived Factor Concentrate Freeze Dry (PFC-FD) 療法について

- 古賀 文敏、横山 尚子、松永 昌誉、中山 省悟、北上 茂樹、山本 勢津子、古賀 剛
古賀文敏ウイメンズクリニック

第2群 [培養・胚評価] 10:55～11:30

座長：伊東 裕子(セント・ルカ産婦人科)

O-04 Piezo-ICSI の成績と分割異常の有無についての検討

- 城戸 京子¹⁾³⁾、渡邊 みあ¹⁾、野中 宥那¹⁾、北島 裕葉¹⁾、杉尾 俊輔¹⁾、上村 慶一郎¹⁾、金沢 衣見子¹⁾、沖津 撰³⁾、中島 章¹⁾、徳永 義光²⁾
1)医療法人杏月会 空の森 KYUSHU、2)医療法人杏月会 空の森クリニック、3)楠原ウイメンズクリニック

O-05 当院における cIVF の媒精方法として short insemination と over night 培養の比較検討

- 上田 真理奈、中村 千夏、徳永 友里恵、池田 早希、江寄 彩乃、畑野 理加、白石 真璃菜、沖田 愛理、三好 潤也、河野 哲郎、小山 伸夫
医療法人聖命愛会 ART 女性クリニック

O-06 使用済み培養液を用いた胚染色体異数性解析の試み その2

- 千葉 摩樹子、永浦 ひとみ、橋口 朝夏、田中 萌絵、坂口 めぐみ、古恵良 桂子、結城 裕之
医療法人 中央レディスクリニック

O-07 タイムラプス搭載型培養器と通常培養器における臨床成績の比較検討

- 矢野 綾音
セント・ルカ産婦人科

O-08 低頻度モザイク胚および高頻度モザイク胚における胚盤胞の形態について

- 米本 昌平¹⁾、竹本 洋一¹⁾、永吉 基¹⁾、中島 大輔¹⁾²⁾、牧野 祐也¹⁾³⁾、田中 威づみ¹⁾、田中 温¹⁾、渡邊 誠二⁴⁾
1)セントマザー産婦人科医院、2)産業医科大学 産婦人科、3)順天堂大学 医学部 産婦人科学講座、4)弘前大学大学院 医学研究科 生体構造医科学講座

一 般 演 題

O-01 当院における採卵術時のデクスメ デトミジンによる麻酔管理の導入

○梶村 慈、江石 千明、松本 加奈子、北島 百合子、
三浦 清徳

長崎大学 産婦人科

【緒言】採卵術における麻酔方法は施設の体制や卵胞数、患者の希望などにより、静脈麻酔や局所麻酔などの麻酔法と使用する薬剤が選択されるが、安全性が担保されることが重要である。当院ではプロポフォールを用いた静脈麻酔下を実施してきたが、麻酔法への適応や安全性の面から2023年6月より非挿管下の鎮静に適応のあるデクスメデトミジン（DEX）を使用したプロトコールへ変更した。今回DEX導入後の有効性及び安全性について検討した。

【成績】麻酔科医の立ち合いにより、DEXの初期投与にミダゾラムとペンタゾシンを併用する採卵術のための麻酔管理プロトコールを作成した。2023年6月以降は産婦人科医による管理でDEX使用に完全に移行し、2023年12月までに82例に実施した。使用例の平均年齢は37.8歳、平均採卵時間は17.5分であった。麻酔開始前と比較して、平均11%の血圧低下、平均23%の脈拍数低下を認めたが、昇圧剤の投与例はなく、徐脈に対し硫酸アトロピンを2例に投与した。呼吸抑制によるSpO₂の低下や気道管理を要した例はなかった。採卵途中での覚醒により6例にミダゾラムを追加投与したが、疼痛による体動を認めた例はなかった。術後の覚醒に影響なく日帰りの外来管理が可能であり、その他に合併症を認めなかった。

【結語】DEXを使用した麻酔管理は採卵術に有効であり、安全に使用できると考えられた。

O-02 アンタゴニスト flexible protocol を用い18mmから投与開始した 場合の臨床成績の検討

○中島 大輔¹⁾²⁾、永吉 基¹⁾、牧野 祐也¹⁾³⁾、
田中 威づみ¹⁾、田中 温¹⁾

1)セントマザー産婦人科医院、

2)産業医科大学 産婦人科、

3)順天堂大学 医学部 産婦人科学講座

【緒言】COSにアンタゴニストが使用され20年以上が経過したが最適なプロトコールは不明で、RCTの多くが主席卵胞径14mmで投与開始している。当院では径18mmで開始しており治療成績を検討した。

【方法】2021年1月～12月にアンタゴニスト法を行った283症例、342周期を対象とした。月経3日目から刺激開始し主席卵胞径が18mmを超えた時点でアンタゴニスト投与を開始し、20mmを超えた時点でトリガーし36時間後に採卵した。

【結果】患者背景は年齢 36.6 ± 4.4 歳、AMHは 3.54 ± 2.68 ng/ml。採卵成績は月経3日目FSH 7.51 ± 2.80 mIU/ml、LH 5.43 ± 2.32 mIU/ml、E₂ 38.9 ± 19.0 mIU/ml、hMG/FSH総投与量 $1,588.4 \pm 498.1$ 単位、アンタゴニスト投与開始時主席卵胞径 20.89 ± 2.46 mm、アンタゴニスト投与本数 2.2 ± 1.0 本、トリガー時主席卵胞径 23.54 ± 2.51 mm、E₂ 2158.1 ± 1449.0 mIU/ml、LH 3.69 ± 6.50 mIU/ml、P 0.60 ± 0.84 mIU/ml、採卵数 10.2 ± 6.6 個、胚盤胞数 2.9 ± 2.2 個であり採卵キャンセルは1例。移植成績は新鮮胚移植68周期、年齢 36.5 ± 4.4 歳、着床率25.0%、臨床妊娠率19.1%、流産率23.1%。凍結胚移植195周期で年齢 35.9 ± 3.9 歳、着床率45.6%、臨床妊娠率41.0%、流産率11.3%。

【考察】18mmでアンタゴニスト開始しても、早発LHサージや黄体化症例は少数で採卵キャンセルは1件で臨床妊娠率も良好であった。アンタゴニストの投与開始の至適時期は不明だが18mmから開始することで使用量を減少させることが可能と思われる。

第80回九州・沖縄生殖医学会

学術集会長：桂木 真司

発行者：宮崎大学医学部 産婦人科
〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200
TEL：0985-85-1510 FAX：097-85-6149

事務局：大分大学医学部 産科婦人科学講座
〒879-5593 大分県由布市狭間町医大ヶ丘1-1
TEL：097-549-4411(代) FAX：097-586-6687

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025